

大岡の風 11月



令和5年10月31日
横浜市立大岡小学校
TEL (711) 0818
FAX (713) 3563

支え合い、学び合うスポフェス

校長 馬渡 照代

先月17日、秋晴れの下、「大岡スポーツフェスティバル 2023」が、無事開催されました。多くの保護者・地域の皆様が来校され、子どもたちを励まし、大きな拍手を送ってくださったことに、心より御礼申し上げます。また、当日は、PTA活動委員の皆様や「おやじの会」の皆様が、陰になり日向になり支えてくださいました。お陰で、いろいろな場面でスムーズに行うことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

さて、この2年間、開催規模を2学年ごと、3学年ごとと少しずつ大きくして開催してきましたが、全員参加ではないという一抹の寂しさを皆感じていました。それでも、昨年のスポフェスでは、仲間を鼓舞する応援団の活躍と、それに倣って心をひとつに発する迫力ある応援で、子どもたちは、懸命にスポフェスを盛り上げていました。私は、そんな姿に大いに感銘を受けたものです。そして、「全校開催だったら、一体どれほどの迫力になるのだろう。」とその日が来るのを心待ちにしていました。

そして、ついに待ちに待った3年ぶりの全校での開催となりました。やはり、私の期待に違わぬ、素晴らしいスポフェスとなりました。6年生は、リーダーシップを発揮して、班をよくまとめていました。5年生も、6年生の補助をしながら、低学年の面倒をよく見ていました。時に、言うことを聴いてくれないことがあっても、腰をかかめて優しく諭している姿は、見ている人をほっこりさせました。実行委員を中心に内容を考え、各色で作戦を立て、特に、高学年は秘密練習までして、良い意味で勝負に拘った団体競技は、大いに白熱したものとなりました。リレーでも、練習の成果を発揮して、見応えのあるレースとなりました。勝っては大いに喜び、負けては目を潤ませて悔しがる、そんな一喜一憂する子どもたちの姿に、大人も夢中になって見入ってしまいました。

でも、当日を迎えるまでの間は、子どもたちにとって、決して順風満帆な日々ではなかったようです。各グループの振り返りの中で、高学年の子どもたちからいくつか課題が出されました。それについてしっかり話し合い、解決策を出し合ってくれたので、学校全体で共有することができ、子どもたちひとりひとりが、改めて気持ちを高めることができました。このことから、子どもたちの、妥協せず、スポフェスをもっと良いものにしたい、という大岡っ子らしい心意気が伝わってくるエピソードだと、嬉しくなりました。

その成果が、17日の子どもたちの動きや語りに、全て表れていたように思います。特に応援は、圧巻でした。頭が地面に付くのでは、と思うくらい反り返って応援する応援団に伝えるように、自席で一緒になって反り返り、声を張り上げる子どもたちの応援は、迫力満点、効果抜群でした。競技中、ずっと座ること無く絶え間なく応援し続ける姿は、大岡っ子にとっては当たり前前の光景ですが、体力・気力が相当必要であり、子どもたちの精神力には、ただただ脱帽です。また、高学年に鍛えられ、懸命に覚えた振り付けを元気いっぱい披露する1、2年生の姿は、とても可愛く、微笑ましくもありました。この応援パフォーマンスは、大岡小の良き伝統であり、これからもしっかりと受け継いでいって欲しいと思います。

最後の「なかよし音頭」を全ての人が輪になって踊るシーンは、私にとって忘れられない思い出のひとつとなりました。クライマックスで、活躍した全ての子どもたちや関わってくださった方々を紹介するシーンも、大岡ならではの素敵な取り組みです。呼ばれた子どもたちの照れつつも、満足そうな顔が、とても印象的でした。こうして、4月当初から準備し、9月になってから本格的に動き出したスポフェスが、終わってしまいました。大人も子どもも、暫くは、「スポフェスロス」になっていることでしょう。

翌日、子どもたちは、各クラスで振り返りを熱心に行っていました。どういった振り返りがなされたかは、学年だよりなどでお伝えできることと思います。「行事は、子どもを成長させる。」とよく言われますが、目的意識をもって活動し、十分な達成感を味わうことのできたスポフェスを通して、子どもたちは、間違いなく成長しています。その経験を基に、これからの日々は、来年4月の自分のあるべき姿を想像し、どう自分自身を成長させていくかを考えながら、学校生活を送って欲しいと思っています。